

ハイデルベルク信仰問答より

問 66 聖礼典とは、何ですか。

答え 神が、私たちに福音の約束を、より完全に明らかに刻印するために、神によって定められた目に見える聖なるしるしであり印章であります（ローマ 4:11）。すなわち、十字架の上で成就されたキリストのただ一つの犠牲のゆえに、神は恩寵として私たちに罪の赦しと永遠の生命を与えられる（使徒 2:38、マタイ 26:28）のであります。

問 65 の学びの中でも聖礼典とは何かについて書かせていただきましたが、今日はもう少し丁寧に見ることになります。先にいくつかの定義を確認しておきましょう。

聖礼典の諸定義：

- ・「見えざる恩恵の見える形」（アウグスティヌス）
- ・「神の恵みの外的な証明」（カルヴァン）
- ・「新約聖書において、神とその民との契約関係の神的なしるしと保証として、世の終わりまで守るべきものとして、キリスト御自身によって制定されたもの、すなわち、洗礼式（バプテスマ）と主の晩餐との二つを意味している。」（新キリスト教辞典）
- ・「私たちが目に見える神の民の共同体に加わり、キリストの死と復活という霊的恵みを享受することの継続的しるしとして、キリストにより制定された（もの）。」（デイビス）

このように、聖礼典の定義は簡潔にも詳しくも書くことができますが、問 66 の答えをここに加えてもよいでしょう。以下では、答えの内容を二つに分けて学んでまいります。

① 神が、私たちに福音の約束を、より完全に明らかに刻印するために、神によって定められた目に見える聖なるしるしであり印章

まずここでは、聖礼典を執行する目的が「福音の約束を明らかに刻印するため」だと言われています。約束とは基本的に言葉によって交わされるものであり、それを守るかどうかは両者の誠実さに懸かっているでしょう。口約束だけでは破られることも多いので、証拠として書き記し、更に両者の印を押し、証明書として両者が保管することもあります。これは、罪人の言葉が如何に当てにならないかということの裏返しとも言えるでしょう。

主イエスは弟子たちとの契約を「最後の晩餐」によって交わされました。そして、そこには「ことば」が伴ってもしました。更に、この契約が永遠に保持されるために、定期的な聖餐式の執行を弟子たちにお命じになりました。このようにして、主はご自分と弟子たちとの契約は「口約束」ではなく、目に見える形で思い起こされ続けるべきものとされたのです。ここには、絶対的にご自分のことばに忠実な神としての主イエスの権威が表されています。

「刻印する」「しるし」「印章」という言葉がしつこいほどに用いられているところにも注目しましょう。洗礼を受けるとき、受洗者にはイエス・キリストの名が書き記され、聖餐式の度ごとにその文字はより克明になっていくイメージです。「印章」は「封印」とも訳すことができるようで、ひとたび閉じられたら（神以外）誰にも開くことのできないものとして、信者が永遠に保存されたことをよく表現しています。朝岡先生の解説を引用してみましょう。

「十字架上で成就されたキリストの唯一の犠牲のゆえに、神が、恵みによって、罪の赦しと永遠のいのちを私たちに注いでくださる」という約束が、たしかに私たちに受け取られていることの「受け取りサイン」であり、またそのような約束が与えられていることをもって、それが二度と破られることのないように、内容を保証する封印が押されているのです。」(p. 210)

**② 十字架の上で成就されたキリストのただ一つの犠牲のゆえに、神は恩寵として私たちに罪の赦しと永遠の生命を与えられる**

聖礼典は、信者一人びとりに「罪の赦し」と「永遠の生命」が与えられたことを、誰の目にも分かるように表すものです。それは、「十字架の上で成就されたキリストのただ一つの犠牲のゆえに」もたらされました。主イエスの愛と配慮を以下のようにまとめることができます。

- (1) 主イエスはいのちを懸けて弟子たちとの契約を守り、
- (2) 約束の通り「罪の赦し」と「永遠の生命」を与え、
- (3) そのしるしとして洗礼を受けさせ、
- (4) 約束が今も有効であり続けていることを目で見えて理解できるように聖餐を実施させておられる。